

建設候補地に関すること③



2022/8/7

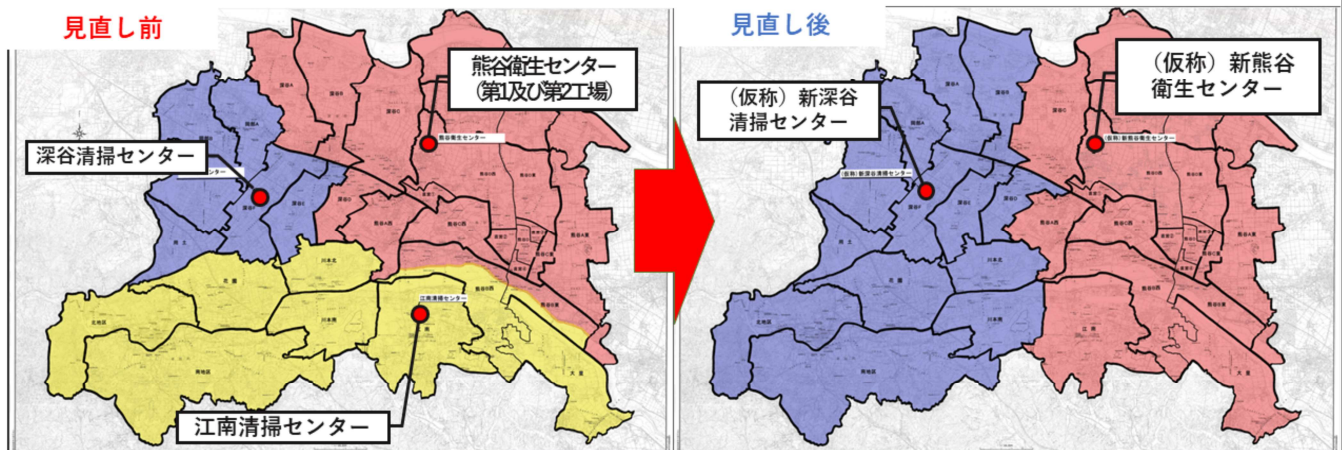
(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

19

別府地内の建設候補地といたしましては、こちらにお示しいたします赤枠の都市計画上の「熊谷衛生センター」の範囲を予定しており、別府農村広場を含む約3.4haを考えております。

補足： 2施設体制の効果（搬入区域）

- ・ 搬入区域の見直しを行います



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

20

ここで、2施設体制とすることによる効果に関する補足をさせていただきます。

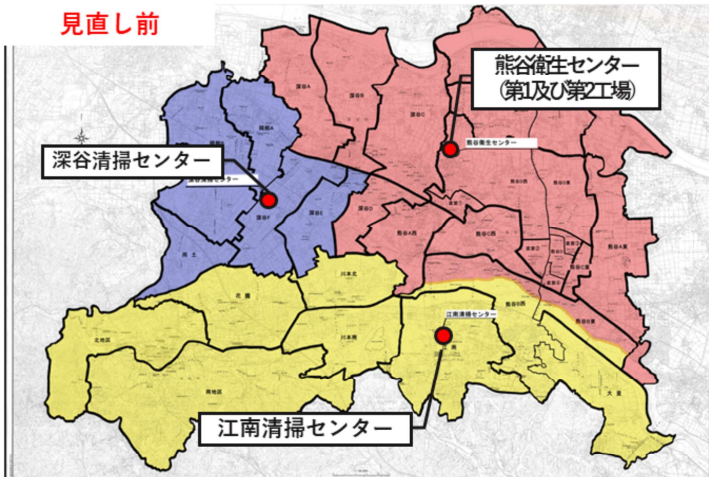
まず、今回の検討結果を踏まえ施設体制として施設整備を進める場合には、収集区域について御覧のとおり見直しをいたく考えております。

具体的には、原則、収集エリアから近い新施設に搬入させたいと考えています。結果、熊谷市と深谷市1エリアのごみは（仮称）新熊谷衛生センターへ、深谷市（1エリア除く）及び寄居町のごみは、（仮称）新深谷清掃センターへ搬入するように見直したく考えております。

補足： 2 施設体制の効果（施設規模）

- 現在は 4 施設で施設規模は540t／日です

見直し前



320t／日
熊谷衛生センター
(第1及び第2工場)



120t／日
深谷清掃センター



100t／日
江南清掃センター

2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

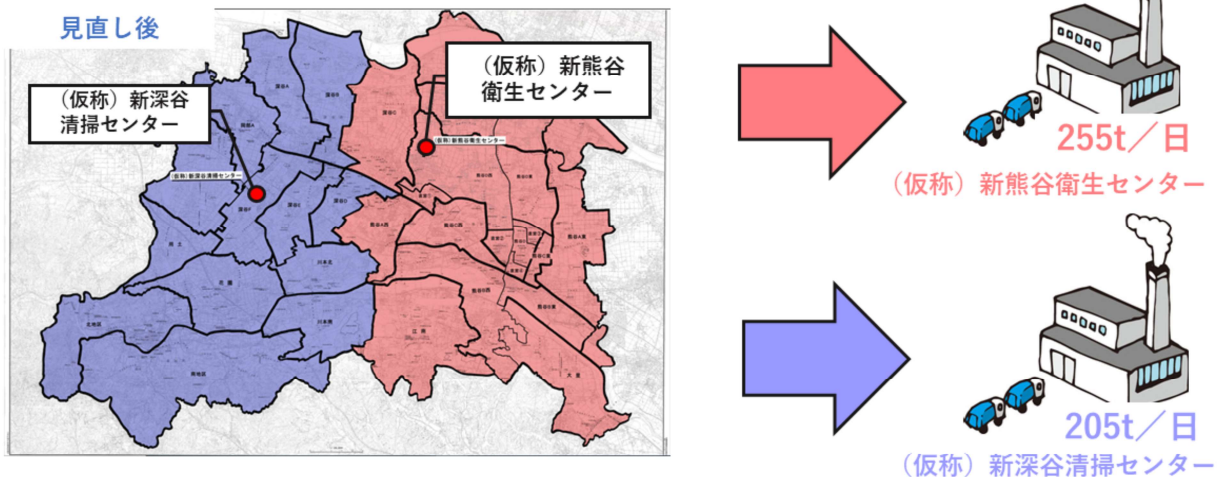
21

ここで、現在の収集区域及びごみ処理体制では、御覧のとおり、赤い範囲は熊谷衛生センターへ、紫の範囲は深谷清掃センターへ、黄色の範囲は江南清掃センターへ搬入がされている状況となります。

そして、4 つを合わせた施設規模は540t／日となります。

補足： 2 施設体制の効果（施設規模）

- 新施設稼働後は 2 施設で施設規模は460t／日になります



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

22

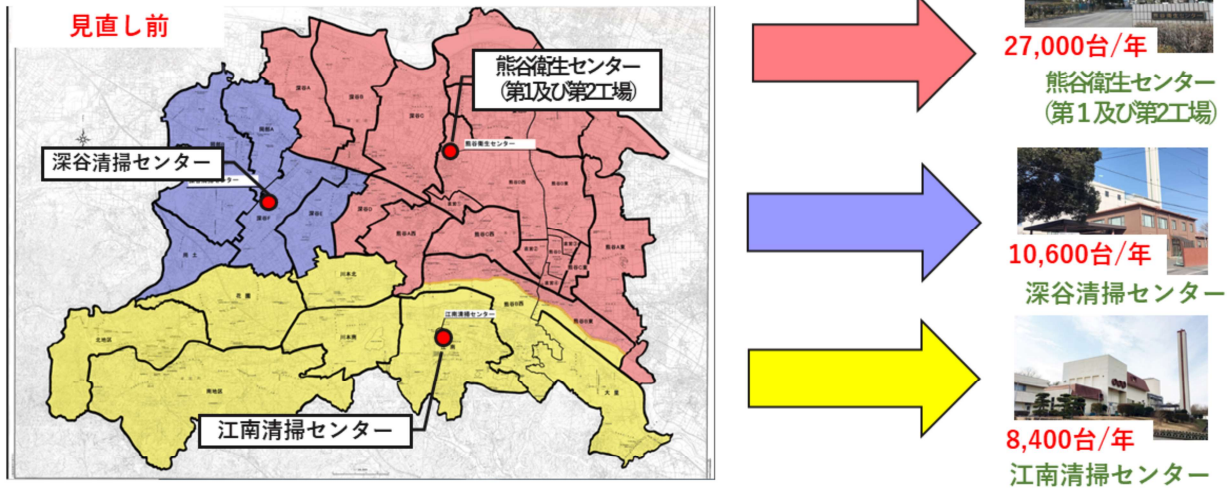
これに対し、先にお示ししました収集区域を見直す場合は、御覧のとおりとなり、主に熊谷市で構成される赤色の収集区域のごみは、（仮称）新熊谷衛生センターへ搬入され施設規模は255t／日を見込んでおります。

また、主に深谷市及び寄居町で構成される、紫色の収集区域のごみは、（仮称）新深谷清掃センターへ搬入され施設規模は205t／日を見込んでおります。

以上も踏まえ、将来的には4施設で540t／日であった現在から、2施設で460t／日の施設規模まで低減することを見込んでおります。

補足： 2 施設体制の効果（搬入台数）

- ・現在は 4 施設で46,000(台/年)です



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

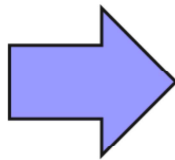
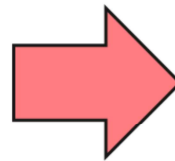
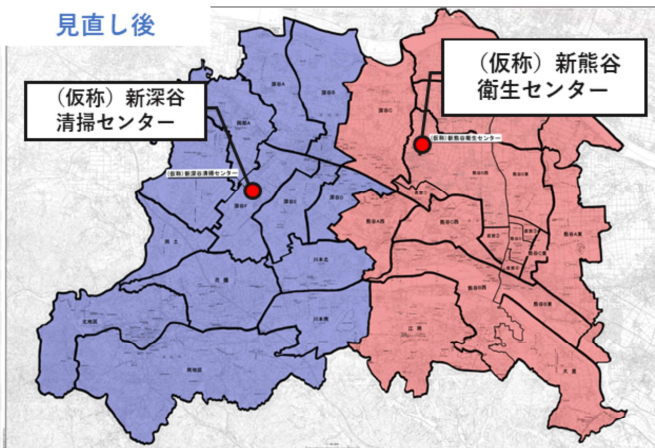
23

家庭系ごみの搬入台数につきましても同様に現在のところ、御覧の3つの収集区域より各施設へ合計で年間46,000台の搬入がされております。

補足：2施設体制の効果（搬入台数）

- 搬入台数が**8,000(台/年)減少し**、**38,000（台/年）**になります
- 圏域内の収集運搬車両による環境負荷低減に寄与します

見直し後



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

24

これに対し2施設体制とし収集区域を見直しすることにより、御覧の2つの収集区域より各施設へ合計で年間38,000台の搬入とすることを見込んでおります。

これにより組合管内全体では8,000台が減少し、環境負荷の低減が期待できます。

焼却処理方式の整理に関すること

・選定の結果（基準：基本方針との整合及び導入実績など）

施設区分	施設の種類	処理方式（炉形式）
エネルギー回収型 廃棄物処理施設	ごみ焼却施設	①ストーカ方式※
		②流動床方式
		③シャフト炉式ガス化溶融方式
		④流動床式ガス化溶融方式

※既存4工場はすべてストーカ方式

処理方式は令和4年度に決定予定

最後に検討事項の3つ目、焼却処理方式に関することになります。

検討委員会にて、先にお示しいたしました基本方針との整合は導入実績などを踏まえ、現在のところ、既存の4施設にも導入されているストーカ方式を含め、御覧の4方式まで絞り込みを行いました。

これらの最終的な選定は、令和4年度に学識経験者も交え選定を進める予定でおります。以上が、ごみ処理施設整備基本構想の主な内容となります。